

まちを元気に！ 椅子を通じた地域活性化への取り組み

鹽竈神社表坂のすぐふもとで、さまざまな椅子が並び光景を目にしたことはありませんか？

ここは、昨年7月にオープンした椅子の張り替え専門店。まちなかの空き店舗を活用する事業者に、市が事業費の一部を助成する商店街活性化事業「シャッターオープン・プラス事業」を利用して開店した16店舗目です。

店主で職人の櫻井優さん(29歳)は、子どもの頃に塩竈を訪れたことがあります。現在は若い人が少なくなり寂しく感じているそう。「店を通して人を呼び込み、活気を取り戻すことができれば」との思いから塩竈に出店することにしました。



▲左) 無料休憩所で「ほっ」と一息。
右) イベントに併せて椅子をライトアップ。



▲櫻井優さんと妻の邦子さん。
「塩竈はイベントがたくさんあって、とてもにぎやかですね」

櫻井さんは、椅子を通じて地域活性化のお手伝いできればと、市や地域のイベントに積極的に参加しています。

10月に開催された「しおがまさま 神々の月灯り」では椅子をライトアップ、年末年始に開催された「塩竈復興！新春ディスプレイコンテスト」では竹と椅子を組み合わせた大掛かりな飾りでまちをにぎやかにしました。神社を参拝する人や観光客のために、座り心地の良い椅子の無料休憩所を設けることもあります。

また、市が販売している「塩竈」のロゴ入りトートバックや、酒屋さんの前掛けを使った珍しい椅子の製作もしており、「今後は塩竈ならではのものを使った定番商品を作り、地域活性化につなげたい」と話してくれました。



問 商工港湾課商工係 ☎364-1124

景観コラム 『景観十年、風景百年、風土千年』

都市景観の原点「国府津千軒」

本市の都市景観の原点は、西暦724年(奈良時代)、国府多賀城の設置に伴い、南町(白坂)から塩釜高校西キャンパスまでの丘陵に国府津千軒という国府の港まちが開かれたことに始まります。後に転訛して香津千軒と呼ばれるようになりますが、現在の香津町は一部区域が異なるものの、往事をしのび大正5年に命名されたものです。また、塩釜高校西キャンパスの辺りは、鳥居原と呼ばれる古代の市場跡と言われ、重要特産物の塩を中心に都からの舶来品や海・農産物の取引が行われていたと考えられています。今では幼稚園や小学校、高校の集まる文教空間となっていますが、学びの地としてふさわしい雰囲気は漂うのは、1,000年以上の歴史に培われてきたからかもしれません。そして、奈良時代の都人の服装は挿絵のような中国風！そんな人々も往来していたのではないかと想像してみると、今まで考えたこともない新たな塩竈が見えてきませんか？



【参考文献：塩竈市史別篇Ⅰ】

※2ページで紹介したように、本市は現在、景観計画を策定中です。市民の皆さんにも景観に関心を持ってもらえるよう、来年3月号まで11回のシリーズで塩竈の景観を紹介します。

問 都市計画課まちづくり推進係 ☎364-2510

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。

防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1Mhz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H27.3.31現在

住民基本台帳調べ (前月比)
人口 55,752人(-123人)
男 26,607人(-48人)
女 29,145人(-75人)
世帯数 22,925戸(+13戸)